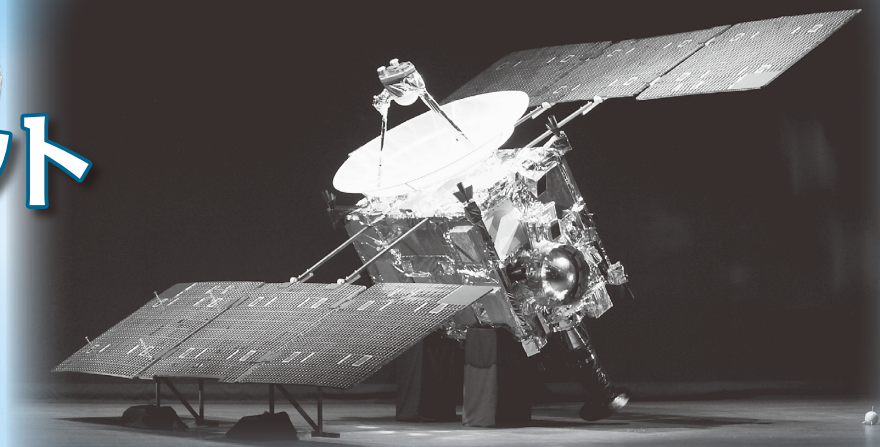


国分寺市でのペンシルロケット水平発射実験成功から60年の時を越えてつなぐ想い

私とペンシルロケット

私とペンシルロケット

ペンシルロケットの
絆と想いは未来を紡ぐ第9回 黒野 雅直さん (愛知県知多郡
武豊町職員)

延べ約320人のボランティアで約1,000時間をかけて作り上げたはやぶさ実物大模型。はやぶさのプロジェクトマネージャを務めた川口淳一郎さんも「よくぞここまで」と驚くほどの出来でした

朝鮮戦争が休戦した翌年の1954(昭和29)年、日本油脂(現在の日油株)武豊工場には、ロケット弾用の燃料がありました。この長さ123mmほどの小さい燃料を見て、糸川英夫博士は、小さなロケットをたくさん使い、実験の数を重ねることで、データを取得するを思い付きます。ペンシルロケットの小さな形状は、この燃料に合わせて生まれました。

平成23年8月、小惑星探査機はやぶさの帰還カプセル全国巡回展示のひとつ、武豊町会場は、延べ1万4千人を超える来場者とスタッフの熱気であふれ、大盛況だった。会場となった武豊町の公共ホールゆめたろうプラザは、これでもかというほどのイベントやコーナーを用意して、来場者を待ち受けていた。

関する武豊町オリジナル企画が館内狭しと並び、いたるところで、来場者に案内をさせてくれる「意欲の塊」のような解説ボランティアたちが、各コーナーを走り回っていた。こんな活力にあふれた展示イベントが、これまでにあっただろうか。武豊町と宇宙との関わりは、町内にある日油株だ。日油株は、ペンシルロケット発射実験の際に固体燃料を糸川博士に提供しており、はやぶさを宇宙に運んだM・Vロケットの固体燃料も、日油株で作られていた。そうした地域性もあり、募集するたびに、さまざまな知識を持った宇宙好きのボランティアが集まってきた。加えて、ゆめたろうプラザでは、開館当初から住民

ボランティアで構成されたNPOだけとよと行政の協働運営の取り組みを行ってきた経緯もあり、多くの人が協力を名乗り出てくれた。

せない感動をみんなが感じていた。ゆめたろうプラザを包んだ活気と熱気の中心に、この実物大模型があった。イベント後、模型は取り壊される予定だったが、(財)日本宇宙フォーラムに委譲され、「武豊モデル」として現在も全国の宇宙イベントで展示されている。



①模型を組み立てて、全体のバランスをチェック②A3版の光沢紙に印刷して、名刺2枚分ほどの大きさに裁断したもの一枚一枚貼り付けて太陽光パネル模型を作製③カプセル模型も大切に手作り④本物と同じ反射材を使ったターゲットマーカー模型⑤蛇腹も丁寧に再現したサンプラーホーン模型⑥パラボラアンテナ模型は3台目でようやくこん身の出来に

中でも最大の注目を集めたのは、はやぶさ実物大模型製作プロジェクトだ。このプロジェクトは「感動を伝えたい」という共通の想いの下に、ボランティアの参加人数がどんどん増えて拡がっていった。10人ほどでスタートしたこのプロジェクトには、最終的に延べ300人を超える住民が携わることとなった。写真などから寸法を割り出し、予算が少ないので材料は段ボールや百円均一商品などの身近な素材を利用した。製作期間2か月半を経て、実物大模型はイベント前日にやっと完成。言葉で表

小惑星探査機はやぶさ2は現在、みんなの希望と夢を乗せ宇宙を旅している。その挑戦のために積み重ねられてきた多くの人の努力に思いを馳せながら、僕たちは、はやぶさ2の帰りを待っている。

ふるさと納税のお礼に
ペンシルロケットレプリカを
贈ります

JAXA宇宙科学研究所共催・1,000機限定

■申込書での申し込み

市政戦略室までご連絡ください。申込書を郵送します。

※市HPからダウンロード可

■インターネットからの申し込み

ふるさとチョイス <http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/13214>から

※右のQRコードからもアクセス可



★市内在住の方も申し込みできます

★寄附金額10万円(連続した2年で分割可)ごとに1機贈呈します

★確定申告またはふるさと納税ワンストップ特例制度の申請をすることで、寄附金控除を受けられます

→市政戦略室(内441)

2016年国際航空宇宙展に国分寺市の出展が決定。一般公開日は10月15日(土)(当日券1,200円)です